

名鉄病院newsletter

平成18年12月号



飛騨国分寺にて 撮影 片岡 将

ごあいさつ 名鉄病院 名誉院長 山田和生

日ごろは何かとご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
最近、自動体外式除細動器（AED）の使用の制限が緩められた事もあり、救急救命処置法に関心が集まっております。処置法には道具を用いない人工呼吸と胸骨圧迫及びAEDによって除細動を行う一次救命処置と気管挿管、薬剤投与などによる二次救命処置があります。名鉄病院では毎月第1土曜日あるいは第1金曜日に院内の全職員を対象にした一次救命処置とAEDの講習会を行っています（約3時間）。更に二次救命処置の講習会を年4回開催しております。最近では院外からの受講者もあり多くの医療施設に救急救命の普及を目指しております。当院では日本救急医学会認定ディレクターの杉浦宏紀医師（循環器科部長）を中心に講習会を開催致しておりますので参加ご希望の向きはご連絡ください。

- 予防接種センターの現状とこれから
- 乳腺外来のご案内
- Season Report / 連携室より一言

外来医師担当表を添付してあります。ご活用ください。

予防接種センターの 現状とこれから

名鉄病院予防接種センター



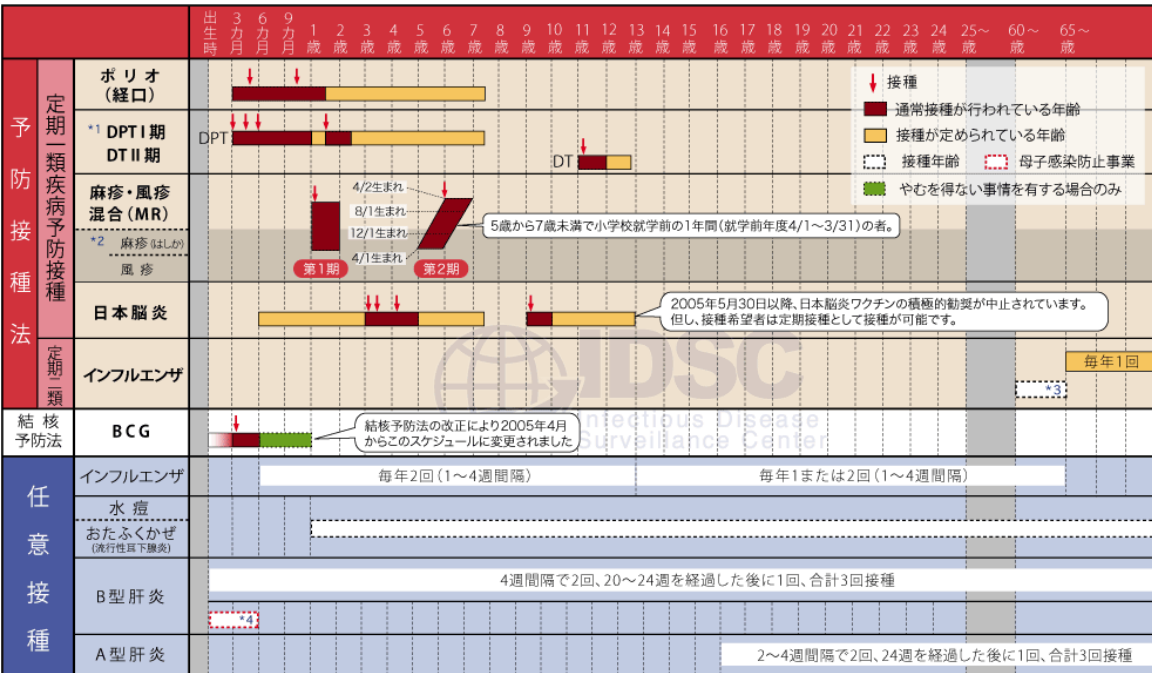
名鉄病院予防接種センターは、小児科予防接種外来を全面的に改組して、日本で始めての民間の本格的な予防接種センターとして平成8年(1996年)10月に誕生しました。痙攣やアレルギーや内臓疾患などの基礎疾患で定期接種が遅れ、年齢超過となってしまいう子どもたちを救済することを目的として、定期接種の洩れ者のための個別接種の外来(予防接種センター)を始め、ようやく10年が経過しました。この間、名古屋市を始め周辺市町村の保健センターと地道に交渉し、徐々に信頼を得て契約を獲得し、名古屋市を含めた愛知県西部の大半の市町村と順調に定期個別接種を進めています。名古屋市や愛知県から専門的判断を要する予防接種施設として認定されたのを機に、全県下の保健センターを対象に、予防接種に関するトピックや相談事や困り事など何でも話し合えるような集い、予防接種懇話会を開催しています。18年6月に3回目を開催しましたが、年々出席者が増え続け会場の会議室に入りきれなくなっていました。毎年話題提供のテーマを決めるのが楽しみでもあり苦労でもあります。

次に、もう一つの重要な個別接種として、海外渡航者のためのトラベルクリニックとしての側面です。渡航者用ワクチンの全接種数に占める割合も年々増加し、既に80%を超えています。日本で承認されている全てのワクチンを常備し、狂犬病の緊急接種にも対応しています。さらに要望の強い腸チフスワクチンや髄膜炎菌ワクチンなどの未承認ワクチンについても積極的に取り入れるよう準備しています。世界的に利用されている安全な実績のあるワクチンでも日本では全く使えないような状況が続いています。アメリカに留学する高校生や大学生など、日本の定期や任意ワクチンが完璧に終了していても、入学するためには全てのワクチンで接種回数や種類が不足しています。要領よく計画的に接種や検査を進めないと、無駄な接種や不十分な接種が生じます。特にツベルクリン反応についての考え方は、日本とは180度異なりますので母子手帳の翻訳や勝手な検査や表記はしないことが大切です。

仕事で海外に赴任したり、途上国への出張や若者の冒険旅行など感染症の知識もないままに平気で出かけるケースが目に見えます。最近では海外に派遣している企業の産業医や担当者の関心も高まり、赴任者については大分改善してきました。しかし、旅行業界はまだまだです。あえて触れたくないような対応です。しかし一部の大手の旅行業者はトラベルクリニックのネットワーク創りに本格的に乗り出してきています。海外旅行や海外生活でのあるべき姿と考えます。日本人の成人のほとんどは海外で生活するにあたって、安全なそして十分な免疫を持っていませんので注意して下さい。何らかの追加接種が必要です。

より身近なトラベルクリニックを目指して、また接種医や保健センターなどの気軽な相談役として、予防接種センターを充実させていきたいと思えます。

「日本の予防接種スケジュール(2006年6月改訂)」と「抗体検査の適切な選択基準と評価」を示します。参考にしてください。



*1 D:ジフテリア、P:百日咳、T:破傷風を表す。
 *2 同じ期内で麻疹ワクチンまたは風疹ワクチンのいずれか一方を受けた者および麻疹または風疹のいずれか一方に罹患したことのある者、あるいは特に単抗原ワクチンの接種を希望する者以外はMRワクチンを接種。
 *3 60歳以上65歳未満の者であって一定の心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有する者。
 *4 妊娠中に検査を行い、HBs抗原陽性(HBe抗原陽性、陰性の両方とも)の母親からの出生児は、出生後できるだけ早期及び、生後2ヶ月にHB免疫グロブリン(HBIG)を接種、ただし、HBe抗原陽性の母親から生まれた男の場合は2回目のHBIGを省略しても良い、更に生後2,3,5カ月にHBワクチンを接種する。生後6ヶ月後にHBs抗原及び抗体検査を行い必要に応じて任意の追加接種を行う(健康保険適用)。
 © Copyright 2006 IDSC All Rights Reserved. 無断転載・改題を禁ずる。

抗体検査法の適切な選択

	ワクチン接種後 6-8週間以降	既往歴調査			
		小児	ワクチン世代	青年	成人
麻疹	① HI	HI	NT	NT	NT
	②	NT			
風疹	① HI	HI	HI	HI	HI
	②				
ムンプス	① ELISA/IgG	HI	ELISA/IgG	ELISA/IgG	ELISA/IgG
	②	ELISA/IgG			
水痘	① IAHA	IAHA	IAHA	IAHA	IAHA
	② ELISA/IgG	ELISA/IgG	ELISA/IgG	ELISA/IgG	ELISA/IgG

陽性基準	麻疹	風疹	ムンプス	水痘
HI	8倍以上	M-16倍以上 F-32倍以上	8倍以上?	—
NT	4倍以上	—	—	4倍以上
ELISA/IgG	8.0以上?	8.0~?以上???	6.0~8.0以上	6.0~8.0以上?
IAHA	—	—	—	2倍以上

[ELISA/IgG:デンカ生研キット]

2006, 5

名鉄病院予防接種センター

名鉄病院 乳腺外来のご案内

名鉄病院外科

当院では毎週木曜日の午後に一般外来とは別枠で、乳腺外来を行っています。ここ数年、全国の病院で乳がん、乳腺疾患を専門とする乳腺外来や乳腺科が開設されており、今や日本でも女性の20人に1人が乳がん罹患し、欧米に比べて比較的小さいと言われた乳がんによる死亡率も年々増えています。先生方の診療所を受診される患者様の中にも乳腺に関する症状、乳がんに対する不安をお持ちの方も増えてきたのではないのでしょうか。このように急増する乳がんに対応するとともに、その診断と治療には専門性が要求されることが、乳腺疾患を専門とする診療科や乳腺外来が必要となった大きな理由です。当院ではH9年9月よりいち早く乳腺外来を開設して、乳腺疾患の専門的な診療に取り組んで参りました。乳腺外来では視触診、マンモグラフィ、超音波検査を初診時にすべて行い、加えて精密検査が必要と判断した場合には当日のうちに細胞診、組織診の検査を行うよう努めています。そして、次回を受診時には診断結果を患者様にご報告できる様迅速な診断にこころがけています。

【乳腺外来での診療】

当院の乳腺外来を受診されるのは次のような患者様です。

- ① 他院からご紹介いただいた患者様
- ② 検診施設からの精査依頼
- ③ 乳がん検診
- ④ 当科外来の初診医からの再診精査依頼

【マンモグラフィ】

日本医学放射線学会の使用基準を満たした乳房撮影装置を設置し、マンモグラフィ撮影認定技師による撮影とマンモグラフィ読影認定医による診断を行います。触診では触れない腫瘍像や石灰化、その他の異常所見により早期乳がんの診断が可能です。

※ 当院ではステレオテックス（3次元生検装置）を用いたステレオガイド下切除生検を行なっていますが、適応があればマンモトーム生検による検査を他院にご紹介させていただきます。



マンモグラフィ撮影装置とステレオテックス

【超音波検査】

初診時に触診に引き続いて外来で必ず行います。表在病変の描出に有効な乳腺専用の超音波検査装置を用いて触診では触れない小さな腫瘍や異常所見により早期癌の発見に努めています。

【細胞診】

触診や超音波検査で腫瘍を認めた場合は引き続いて超音波下に穿刺吸引細胞診を行い、迅速に診断できるようにこころがけております。

【組織診断 針生検】

組織診による確定診断が必要と判断される例は細胞診に引き続いて針生検を行います。



外来診察室での超音波検査

患者様のなかには大学病院やがんセンターの受診を希望される方もみえますが、乳がんの手術自体は習熟した専門医によれば一般の総合病院で十分に行え、必ずしも大病院でないとできない手術ではありません。一方、画像所見を的確に診断して‘しこり’を触れない様な早期がんを診断する診療のレベルや、手術以外の放射線療法や化学療法、ホルモン療法について最新の知識で総合的に治療できる専門の医師が必要であることは間違いありません。当院は日本乳癌学会認定研修病院の施設認定を受けており、これまで乳癌検診にも積極的に取り組んでまいりました。先生方の診療所を受診される患者様で、乳腺の症状について視触診や超音波検査で判断に迷う方もみえるのではないかと思います。また、乳がんの検診結果について患者様からご相談があった際などぜひ当院の乳腺外来に一度ご相談ください。

*乳腺外来は毎週木曜日 午後1時30分から4時までの予約制(電話予約可)で担当医師は野崎英樹です。

お知らせ

平成19年4月より、耳鼻咽喉科が常勤医体制となりますのでお知らせいたします。

season report

名鉄看護専門学校では『学校祭』が行われ、合唱などが披露されました。また、イベントかえるクラブでも『秋の作品展』を開催いたしました。



連携室より一言

前回の newsletter では残暑お見舞い申し上げましたが、早いもので今月号では冬のご挨拶の季節になってしまいました。私は本職は産婦人科ですが、女性の貧血症の原因が過多月経によるケースが少なからずあります。最近、ある地域の先生からたびたび貧血症の原因精査を依頼され子宮筋腫などを発見したりして、非常に良いコミュニケーションが取れていると実感しています。これこそが地域医療連携の本来の姿であり、その為に益々地域医療連携室の役割が重要であると認識しています。これからも連携室一同頑張っていけますので、皆様もどうかよろしく願いいたします。（地域医療連携室長 細井延行）

鍋料理のおいしい季節がやってまいりました。古来より『医食同源』と言いますが、各種の自然食材をバランスよく摂れる鍋料理は優れた調理法だと思いません。食材を煮込んだあとのダシ汁には各種栄養がふんだんに溶け込んでおり、これを使ってうどんやおじやで締めるのも格別です。

また、皆で鍋をつつくことで食事そのものも楽しくなります。この、アジアでよく見かける“皆で鍋をつつく”というスタイル、西洋ではチーズフォンデュぐらいしか見当たらないという話を聞いたことがあります、実際のところはどうなのでしょう。

以前、香港旅行の際に家族で鍋をつつく光景を目にしましたが、この時に締め込みに鍋に入れていた麺が明らかにインスタントラーメンで驚いたことがあります。食文化はクロスオーバーしていくのだなあ、と感じた冬の夜でした。（Y）

名鉄病院 地域医療連携室

〒451-8511 名古屋市西区栄生2-26-11

TEL.052-551-6121(代) 052-586-5755(連携室) FAX.052-586-5756

URL : <http://www.meitetsu-hospital.jp/>